

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2021年11月25日(木)
 NO. 1224号
 本号3頁

<総選挙を振り返る>

「野党共闘不発」「野党共闘の低迷」との批判は正しいのか？

総選挙を振り返って見ます。総選挙では、289の小選挙区の75%を超える217で野党共闘が成立。そして、共通政策・政権協力・選挙協力と3点揃った総選挙体制を実現させて選挙戦をたたかうことができました。結果、甘利自民党幹事長を小選挙区で落選に追い込むなど、多くの選挙区で接戦にもつれこむ選挙戦を展開しました。しかし、れいわ新選組は3議席確保、社会民主党は1議席維持したものの、立憲民主党や日本共産党は議席を減らしました。

一方、自民は15議席減らしたものの「絶対安定多数」を得るなど、自公与党が政権を維持する結果となりました。また、維新の会は、自公政権に不満をもつものの立憲野党支持に回れなかった人々の支持を得て、自民と立憲が減らした29議席が維新に移り、前議席数の4倍近い議席を得ました。この結果、自民、公明、維新を合わせて334議席となり、衆議院では選挙前と同様に改憲派が3分の2を占める事態となってしまいました。

しかし、この度の選挙での最大な問題は、選挙制度です。自民の比例での得票率は34.7%で、絶対得票率は18.9%に過ぎません。民意を正確に反映しない選挙制度が最大の問題です。

野党統一候補各1万票差以下で競い負けたのが32選挙区

マスコミは盛んに「野党共闘不発」「野党共闘の低迷」と報道していますが、しかし、本当にそうでしょうか。たとえば、野党統一候補各1万票差以下で競い負けたのが32選挙区ありました。あと1万上乗せできれば、自民の単独過半数割れに持ち込めたのです。

また、立憲民主が議席を14議席減らしたのは、小選挙区で公示前の46から57に前進したのに対して、比例では62議席から23議席減らし39議席にとどまりました。ですから、立憲民主党は野党共闘でたたかった小選挙区で議席を伸ばし、比例で減らし、全体で14議席減らしたのです。野党共闘で小選挙区をたたかわなかったならさらに悲惨な結果となったことは明らかです。

また、野党の敗因は選挙制度の問題だけでなく、「低投票率」と指摘する声があります。最終投票率は55.93%で、前回・平成29年の選挙より2ポイント余り上回ったものの、戦後3番目に低い投票率でした。新潟では6選挙区のうち4選挙区で野党統一候補が当選、残る二つも肉薄しました。その新潟の投票率は62.5%でした。ある研究者は、全国であと500万、あと5%投票率がアップしていれば、政権交代が実現したのではないかと指摘しています。

野党共闘でのたたかいに確信をもち、8ヵ月後の参院選挙勝利に向け奮闘を

さらに、自公与党勢力は比例得票数を2553万から2703万に増やすものの310議席から291議席に減らしています。「与党補完勢力」は比例得票数は1306万(希・維)から805万(維)に減らし、議席も61から41になりました。「共闘勢力」の比例得票数は1643万(共・立・社)から1889万(共・立・社・れ)に、議席は68から110に。「共闘勢力」が比例も議席も前進しました。

このように野党共闘のたたかいは「野党共闘不発」「野党共闘の低迷」との評価は明らかに間違いと言わねばなりません。

野党共闘でのたたかいに確信をもち、8ヵ月後の参院選挙勝利に向け、教訓を生かし、市民連合に結集し、市民の共同、市民と野党の共闘、野党共闘を一層強めることが重要ではないでしょうか。

9 改憲をめぐる情勢は新たな重大局面を迎える！！

岸田首相は開票翌日の1日、「党是である憲法改正を積極的に進めたい」と発言しました。そして、10日には憲法改正は「重要な課題だ」として、党内の体制強化や国民的議論の喚起を指示しました。首相は「国会の議論と国民の理解は車の両輪だ。両方がそろわないと憲法改正は実現しない」と強調。改憲に前向きな日本維新の会など野党との連携に関し、「政党の枠組みでどうこうではなく、結果を得るためにどうすべきか検討し、努力したい」と述べました。

一方、自民党の茂木幹事長は12日、衆院選で憲法改正に前向きな日本維新の会や国民民主党が議席を伸ばしたことを踏まえ、改憲論議を加速し、緊急時に政府の権限を強化する「緊急事態条項」の創設を優先的に目指す方針を示しました。

さらに、維新の会の松井代表が2日、憲法改正の国民投票を来年の参議院選挙と同時に実施するよう主張しました。（この同時実施は憲法しんぶん速報1219号に記載した通りで、実現は不可能であり、「改憲派への揺さぶり」に過ぎません）そして、維新と国民民主の初の幹事長、国対委員長が9日会談で政策面での連携強化確認。その中で、揮発油税の課税を停止する法案を共同提出する、国会議員の歳費2割削減措置の延長を目指す方針でも合意するとともに、国会の憲法審査会の早期開催、定例日開催を目指す考えも確認しています。そして、国民民主の玉木代表は7日、「憲法審査会を毎週開いたらいい」と発言しました。

しかし、国民民主の参院議員には「野党共闘」で当選した議員もおり、どこまで改憲で連携できるのか不透明と言わざるをえません。

そして、自民党は「憲法改正推進本部」を「憲法改正実現本部」と名称を変えました。

米軍、那覇軍港からオスプレイを米本土移送

米海兵隊普天間基地（沖縄県宜野湾市）所属のMV22 オスプレイ3機とCH53E大型輸送ヘリが23日午後、同県那覇市の米軍那覇軍港から自動車運搬船グリーン・レイクに積み込まれました。

オスプレイなどは19日から20日にかけて、事前通告もなく那覇軍港に飛来しました。米軍は「メンテナンス（整備）のため、船で米本土に運ばれる」と明らかにしていました。グリーン・レイクはこれまでも、米本土からMV22、CV22 オスプレイを日本に移送する際に使用され、山口県岩国市の岩国基地で陸揚げしていました。

那覇軍港はあくまで港湾施設であり、米軍機の使用は目的外使用となります。しかし、米軍は今回のオスプレイなどの飛来は「通常の運用」であり、今後も米軍機の使用がありうるとの考えです。

米陸軍が管理する那覇軍港は市の玄関口に位置しており、街づくりの障害になるとして1974年に返還合意されましたが、「移設」条件付きのため、今日まで実現していません。日米両政府は浦添市への移転計画を進めていますが、同市でも反対の声が強まっています。

オスプレイ那覇軍港着陸 那覇市長と玉城知事「強い憤り」

米海兵隊のオスプレイ3機が那覇軍港に着陸したことについて19日、城間幹子那覇市長と玉城デニー知事はそれぞれコメントを発表し、米軍に対して強い憤りを表明しました。

城間市長は「私はこれまでも、安全性への強い懸念から『県内へのオスプレイ配備は反対である』との立場を表明している」と説明。「那覇軍港（那覇港湾施設）は多くの民間機が発着する那覇空港に近接しており、オスプレイ飛来は市民県民をはじめ多くの観光客などの安全性を脅かすもので到底容認できない」と主張しました。

玉城知事は市街地に位置し、航空機使用を目的としていない同施設への飛来は「周辺住民をはじめ県民に大きな不安を与える」と強調。オスプレイ配備反対の県の姿勢を強調し「配備撤回を求めるとともに、今回のような運用が2度と起こらないよう厳重に抗議したい」としました。



改憲の危機 「憲法ポスター」の注文相次ぐ 8日間で1252枚

総選挙後、自民党とともに維新の会、国民民主党の改憲推進派の憲法改正の動きが強まるもとで、憲法会議が普及に努めています「憲法ポスター」の注文が急増しています。15日から22日までの8日間で1252枚の注文がありました。

これは12月19日の憲法講座の申し込みが数日で参加枠の100名に達したと同様に、市民の皆さんが総選挙後の改憲の動きが急速に強まるもとで「何とか阻止したい」との思いから注文されたようです。

注文は「1枚だけですが・・・」との注文から、「9条の会の仲間と一斉に張り出します」と100枚の注文等と、次々と注文の電話、FAXで届きます。

さらに、しんぶん赤旗に広告が掲載された24日には、300枚を超える注文が届き、一日発送作業に追われました。

8月に5000枚印刷した「憲法ポスター」は残数があとわずかとなり、26日に新たに5000枚が納入されます。

是非、皆さんも職場・地域に張り出し、「9条改憲反対」の世論を広げましょう。1枚100円（10枚以上で1枚90円）、ご注文は憲法会議（電話03-3261-9007 FAX03-3261-5453）まで。



各地のとくみ

栃木 高校生は「戦争はいや。いまの平和な社会の方がいい」

安保法制廃止!9条守れ!宇都宮市民の会は19日、「9条改憲を許すな」と街頭宣伝し、署名を呼びかけました。

石田弘太郎代表は「野党で一致した共通政策を反映させるという共闘の意義は大きい。共闘を「野合だ」という攻撃があるが、少数意見を切り捨てる小選挙区こそ弊害は大きい」と訴えました。

日本共産党の天谷みえ子市議は「与党は軍事費を2倍にしようとしているが、軍事に軍事で対抗するのは危険を増やす行為だ」と指摘。総選挙で栃木1区候補としてたたかっていた青木ひろし中部地区委員会委員は「市民と野党の共闘は確かな成果を上げ、立憲野党全体では議席が増えた。憲法守れの声を広げ、参院選でさらに共闘を進めていこう」と訴えました。

署名した高校1年生の女子は「戦争はいや。昔に戻そうとするより、いまの平和な社会の方がいい」と話しました。

神奈川 トランペットなどの楽器演奏とともに、憲法改悪反対などを訴え

川崎市中原区のJR武蔵小杉駅の連絡通路を中心に、2018年2月から毎週2回のペースで署名宣伝に取り組んでいる「しよめい隊」のとくみが19日に300回目を記録しました。

「しよめい隊」は「安倍9条改憲NO!3000万人署名」をきっかけに5人でスタートし、約7000人分を集めました。その後も「安倍9条改憲NO!改憲発議に反対する全国緊急署名」などの署名に取り組んできました。

19日は、別の活動で共同している市民団体にも呼びかけて約23人が集まりました。トランペット、ジャンベ、三線、ハーモニカ、ハンドメイドのチンドン太鼓、オカリナなどの楽器演奏をはさみながら、マイクリレーで憲法改悪反対などを訴えました。

三線を演奏した白鳥峰司さんは「誰かの指示に従うのではなく、自ら楽しみながらやっています。運動を広げるためには伝え方もアップデートしていく必要がある」と話しました。

「しよめい隊」代表の栗原伸元さんは「個人の自主性を尊重した自由な場であることを心がけています。SNSなども使いながら若い人との共同も広げていきたい」と話しました。